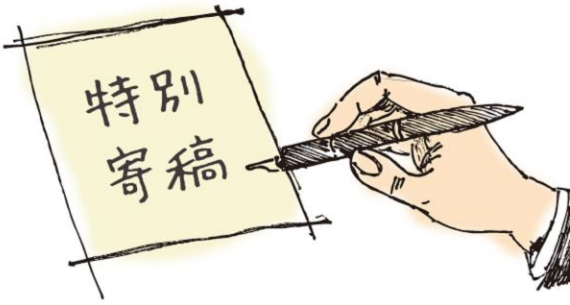
日本公認会計士協会

北部九州会

http://n-kyusyu.jicpa.or.jp/

2018.01
228号



ラバウル訪問記

北九州・筑豊部会 廣瀬 隆明
Takaaki Hirose

昨年12月2日から6日までラバウルに行ってきました。ラバウル航空隊で有名な地ですが、これはラバウルを中心としてソロモン諸島やニューギニアの多くの基地に展開した日本海軍・陸軍の各航空部隊の総称です。

当初、旅行代理店から10名程度のラバウルツアーの案内があり申し込みをしたのですが、所定の参加人数に達せず中止になりました。しかしこちらはその気になって日程も押さえていましたので、またしても一人旅ということになりました。

(1) ラバウル

ラバウルはニューギニア島の東、ニューブリテン島の東北端に位置しています。ニューブリテン島は九州とほぼ同じ面積で人口は約50万人です。ラバウルはかつて東ニューブリテン州の首都で、人口も2万人ほどだったようですが、1994年にダブルヴル山（花吹山）の大噴火で火山灰が4、5mも積もったため首都が変わり、現在の人口は4千人くらいです。ラバウルへは成田からポートモレスビーまで約6時間半、ここで国内線に乗り換えて直行で約1時間半の行程です。

ラバウルの飛行場はもとはと言えばオーストラリア軍の基地でしたが、1942年の初めに日本軍が占領し整備・強化したものです。

(2) ラバウル飛行場

ラバウルにはいくつかの飛行場がありましたが、なかでも有名なのは西、東と呼ばれていた2つの飛行場です。車で30分ほど離れた距離にありますが、東飛行

場は主としてゼロ戦などの戦闘機、西の方は主として爆撃機や攻撃機が配備されていました。

写真は、ラバウル東飛行場のシンボルともいうべき花吹山です。戦時中に撮影された飛行隊の集合写真でも、この花吹山をバックにしたものが多く見られます。

東飛行場のラバウル湾側の端に立って撮影したものですが、辺り一面直径1～3㎝の表面が粗い軽石のような火山灰に覆われ、あちらこちらわずかに雑草が茂っているという状況で、かつての飛行場の面影はありません。

花吹山の後ろには目立った3つの山があり、中央は母山、向って右が南娘、左は北娘と呼ばれていたそうです。戦地ではやはり内地に残る母や娘が気がかりだったのではないかと思います。

(3)平和記念碑（南太平洋戦没者の碑）

ラバウルでは約9万人の陸軍将兵が守りを固めていたため米軍は上陸を避け、したがって地上戦はありませんでした。しかし、ラバウルを中心とした南海で亡くなった多くの航空隊員たちの霊を慰めるため、1980年に日本政府や戦友会、地元の人々の協力で平和記念碑が建立されました。

日本の方角を向き、天井には南太平洋の地図が描かれています。赤い線は赤道、黒い穴はラバウルの位置を表しています。当初は穴にガラスがはめ込まれ日が差し込むようになっていましたが、壊れて雨漏りがするため、ヤシの実をはめ込んでいました。一刻も早い修理が望まれます。

(4)最後に

これは現地のガイド、フレッドさんの実家に寄った時の写真です。一番右端がお兄さん、左端がその奥さんです。現地の人たちの生活の一端に触れるのも旅の楽しみです。